

■ アンケート:500世帯対象、回答365世帯(抄)

どの位分別して出したか

ほとんど毎回(91.8%) 半分(4.4%)
1/3以下(2.7%) 出さなかった(0.8%)

毎回出さなかった理由

分別の仕方が分からない(23.4%)
保管場所に困る(21.3%)
対象物がない(14.9%)

分別のし易さ

比較的簡単(74.0%) 多少難しい(22.7%)
とても難しい(1.1%)

分別は面倒だと感じたか

始めだけ感じた(48.8%)
始めから感じなかった(32.6%)
最後まで感じた(8.2%)

毎週のプラ容器包装の量

1袋(50.4%) 1袋未満(36.7%) 2袋(5.2%)

不燃ごみ量の減った割合

2/3以上(43.3%) 半分以上(21.1%)
1/3程度(10.7%) 変化なし(18.1%)

自由意見

- ・不燃ごみの大半がプラ容器包装であることを実感
- ・過剰包装について考えさせられた
- ・高齢者には分別方法が分かりにくい
- ・洗浄度合いがわからない
- ・良い試みなので続けてほしい
- ・不燃ごみが殆どなくなった
- ・これ以上の分別と洗浄は面倒
- ・住民に習慣づけることが大切
- ・他の地域でも実施してほしい

出典:中野区



■ PRが重要な鍵

アンケート結果でも対象品目や洗浄度合いがわかりづらいという意見が多くありました。適正な分別排出を促すには、区民へのPRが重要となります。今回は、職員が全ての世帯を個別訪問し在宅者には対面での説明を行いましたが、今後は、効率的で効果のあるPR方法を検討する必要があります。

出典：中野区



「きめ細やかな分別収集に係わるモデル事業」

京都大学環境保全センター
京都市環境局

目的（抄）

「プラスチック製容器包装ごみ」をより細かく分別することにより、よりリサイクルしやすい資源物として活用できる可能性があるか？

本実験の概要

- 対象者:京都市左京区
内の聖護院地区の市民
(245世帯)
- 8つの分別項目を設定し、
分別用袋や説明資料等
を配布し、2回に渡って
分別収集実験(アンケート
も)を実施

説明会:2006年12月2日(土)
一週間前に分別袋等配布

プラスチック製容器包装
ごみ(プラスチック類)



8種類に分別 分別袋

アンケートと一緒に

収集(普段の拠点へ)

第1回:2006年12月13日(水)

第2回:2007年1月17日(水)

出典:京都大学環境保全センター
京都市環境局

プラスチック製容器包装材の8分別とは？

「製品別」
3つの製品は分けて

プラ手さげ袋

ラップ

卵パック

「材質別」
材質表示に従って

PET

PE

PS

PP

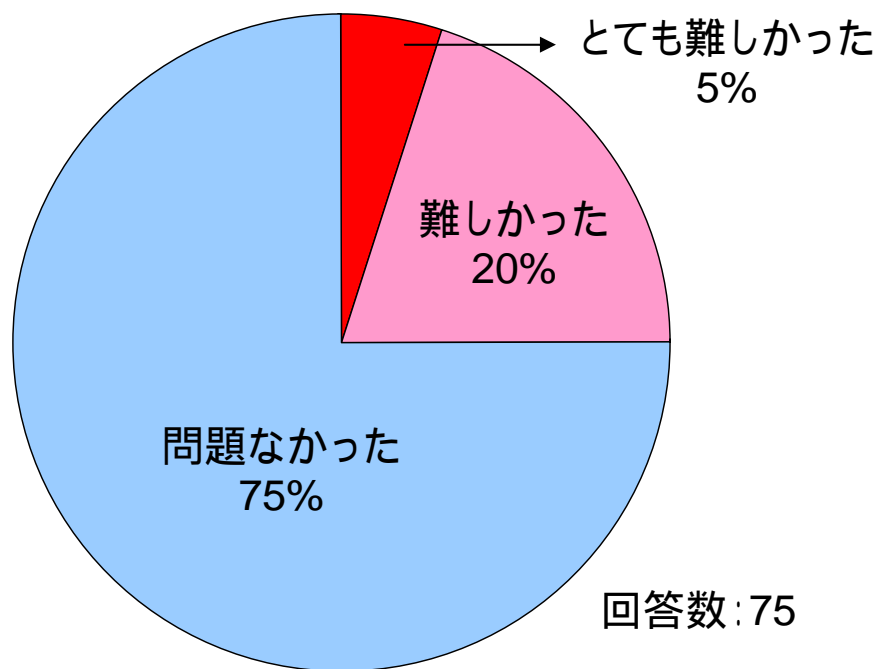
プラその他

出典：京都大学環境保全センター
京都市環境局

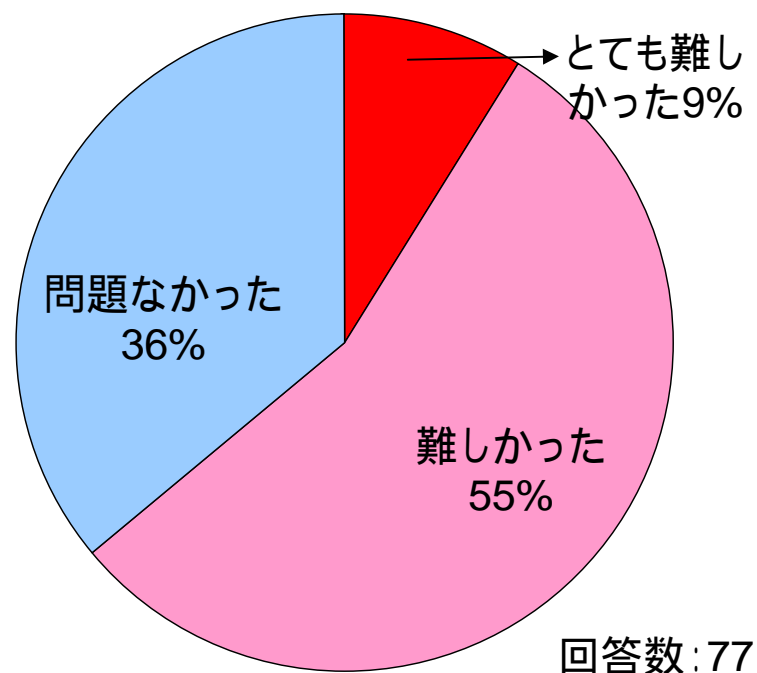
アンケート結果

分別の難易度について(第1回の結果より)

製品別(レジ袋、ラップ、卵パック)

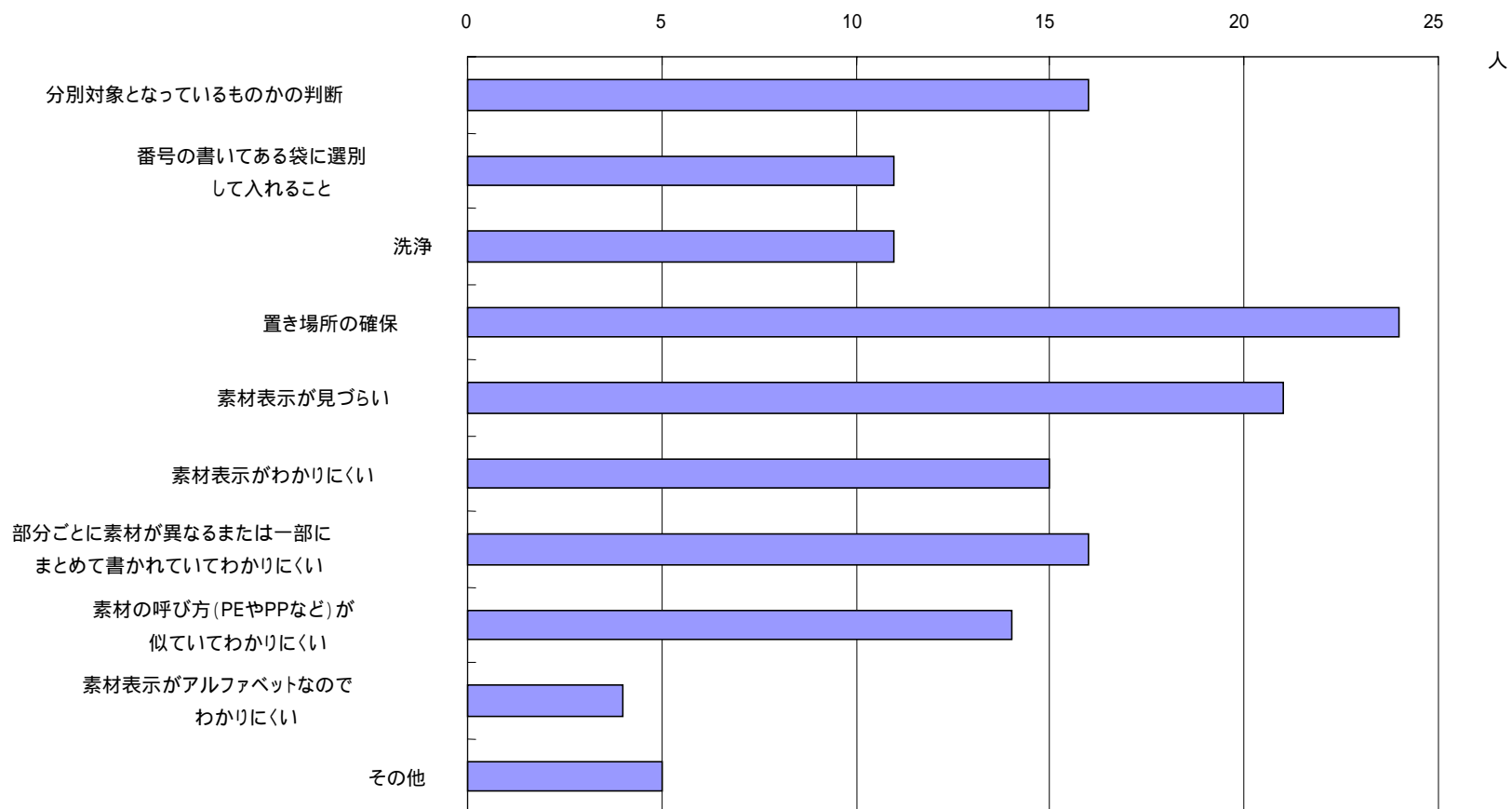


素材別(PET、PP、PE、PS、その他)



製品別分別の方が明らかに「問題なかった」と回答した人が多く、製品有姿での回収が市民参加における意識的ハードルを低くできる可能性がある

素材別(PET、PE、PS、PP)に分別するときの難しかったこと(「難しかった」、「とても難しかった」と回答した人のみ)



出典：京都大学環境保全センター
京都市環境局



事業推進上の課題(抄)

- その他プラスチックのよりきめ細かな分別には、市民の負担感が相当あること

出典：京都大学環境保全センター
京都市環境局



・まとめ

- 自治体の対応
 - ・ 分別基準適合物の質の向上を図る。
 - ・ 分別の区分を細分化しても、対応はきわめて困難である。また、コスト増になるため、費用負担のあり方も問題となる。
- 特定事業者に対する要望
 - ・ 表示の工夫 …… 見やすいところに、見やすい大きさで
 - ・ 単一素材化 …… 分別しやすいように、構造や材質を簡素に
 - ・ 情報の提供 …… 簡易包装・詰替容器の店頭掲示、汚れの落ちにくい容器包装の洗浄方法等の周知
- 再商品化事業者に対する要望
 - ・ 住民への施設見学会の実施
- 「資金拠出制度」の効果的な運用